

根来山げんきの森倶楽部

令和3年8月作業日誌



今回は35人の倶楽部員がカッパを着て朝から集まりました。前日まで大雨が続いていたため、炭窯班以外は予定の作業はせず、ウォーキングコースや車道などに被害はないかチームに分かれて見回りをしました。

活動日：令和3年8月15日 9:30～15:00 天気：雨 倶楽部員：35名



はちみつ抽選会

あいにくの雨で作業はできませんでしたが、朝早くから集まった倶楽部員で蜂蜜の大抽選会をしました。この蜂蜜は、げんきの森に仕込んでいた巣箱から7月下旬に採蜜した希少なニホンミツバチの蜜です。今年は例年より少し多めの6割が採れたそう。抽選会のために、倶楽部員のMさんが巣板を絞り、天日にあてながら濾過して瓶に詰めてと準備してくださいました。抽選会では、大中小42

個の瓶がずらり。どれも琥珀色に輝き、見るからにおいしそう！ 皆さん大瓶をねらってクジを引き、「だれが一番大きいの当てるかな～」と大いに盛り上がりました。

年に1度しか採れず、繊細で養蜂が難しいと言われるニホンミツバチ。げんきの森の植物を蜜源にしたこの蜂蜜は、風味豊かでのどにからみつくほどしっかりと甘さがありました。紅茶に入れたりヨーグルトにかけたりと、毎日ひと匙ずつ大切にいただいています。来年はまた、どんな味わいの蜂蜜ができるのか、今からとっても楽しみです。(秦野 裕子)



炭窯の補修

午前中雨の中、11名の倶楽部員で天井部の修復が終わった炭窯内の清掃と焚き口、炭材の出し入れ口の蓋に使うレンガとずっしりと重い石を洗う作業をしました。洗ったレンガには、次回置く順番が分かるように番号を入れています。掃除の済んだ窯に入ると、修復時に屋根の土台となった部分を燃やすため入れた火は、消えてから一週間ほど経っているのに、中はまだほんのりと温かさが残っていて壁に触れると冷め切らない熱が伝わってきて、初めての感覚を体験

しました。あとは、炭窯と屋根の隙間を埋めるのに使う赤土を練って午前の作業を終えました。雨が上がった午後、6名で午前中練った土で隙間を埋める作業と炭小屋周辺の草刈り、窯内を温めるための作業をし、この日の作業は終了しました。6月後半から暑い中炭窯修復作業に携わってくださった皆さん、本当にお疲れ様でした。

皆さんの汗と熱い思いや願いで復活した炭窯でまた沢山の竹炭が出来ますように。(岡 尚美)

老朽化してギシギシ言い始めた管理棟前の舞台を、今年は全面改修することになっています。

先日、製材屋さんにげんきの森の伐採したヒノキを運び出して製材してもらい見振りを作ってもらいました。

製材屋さん曰く『岡田さん、材料は買った方が安いよ！』。

でも、いいのです。大切なのは、この森で育ったヒノキを使った舞台を作ること。

体験棟裏のデッキを作った時もそうですが、来園者のみなさんには、完成した新しい舞台を前に『この森のヒノキで作ったんですよ』と誇らしげに自慢したいですからね。(岡田 和久)